びわ湖環境ビジネスメッセ2012

15周年記念開催

あす開幕

長浜ドームで3日間

10月24日から26日までの3日間、滋賀県長浜市の長浜ドームを会場に「びわ湖環境ビジネスメッセ」（主催・滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会）が開催される。環境先進県として知られる滋賀県で1998年から続く同メッセは、環境をテーマとする展示会の中では今や全国でも屈指の規模を誇る。15回目にあたる今回もまた、環境に配慮した製品・技術・サービスを筆頭に持続可能な経済社会の確立に向けた各種の情報・提案が集まっている。入場は無料。開場時間は10時―17時（最終日は16時まで）。主催者では約3万6000人の来場を見込んでいる。

「環境問題の解決」は古くて新しいテーマ。資源を利用し各種製品を生産し続ける企業活動と、環境保護とをいかに無理なく共存させて行くかは、産業界がかねて取り組んできた課題であり、グローバル化によって全世界規模でモノづくりが行われる中で、ますます重要となっている。

びわ湖メッセにとっても「環境と経済の両立」はスタート以来の理念であり、これに向けて実にさまざまな展示が行われてきた。加えて環境にかかわる技術の発展や普及についての取り組みに産官学が一体となって考え、情報発信していくメッセの、内外からも評価を得ており、それが15年も続いた理由だろう。

東日本大震災とその後の電力供給不安によって、省エネルギーという問題が極めて切迫感を持って突きつけられることになった。いわば最善の努力をかたむける目標から、切迫した経営問題となった。とはいえ、環境とビジネスの両立は難しいとされたメッセのスタート当初とは異なり、世界的に見ても総じて環境関連産業のフィールドは広がりつつある。

成長産業としての魅力は多く、そして量産品では周辺諸国に押されがちな我が国にとっても、積み上げてきた技術やアイデアを生かすことができるビジネスチャンスの大きい分野だ。理念とビジネス、いずれにも貢献できるこの分野の先端に滋賀で触れられることは大きい。このような流れを背景としてか、今年は300企業・団体、過去最高の510小間が集まって開催される。近年でもエポックメイキングな年となることが期待される。

会場内はそれぞれテーマごとに創エネ、省エネ・蓄エネ、環境ソリューション・IT、浄化（水・土壌・大気）、環境土木・環境建築、廃棄物処理・リサイクル、エコプロダクツ、食と環境ビジネス、産学官連携、環境啓発、ベンチャーにゾーン分けされ製品・技術・サービスなどが紹介される。

また、特設ゾーンとして日韓広域連合協業プロジェクト、環境と健康バイオ産業振興プロジェクト、新連携・地域資源活用・農商工連携、ちゅうごく地域循環・環境型社会形成プロジェクト、ふくしま環境・新エネルギー環境産業コーナーなどが設けられる。

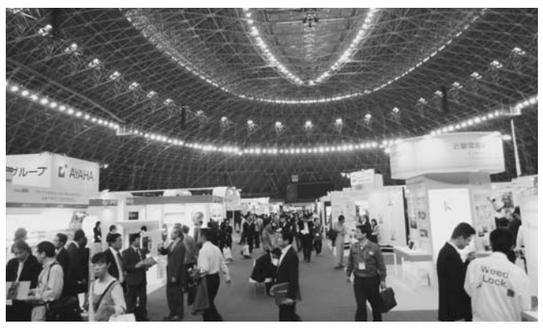
印象的なドーム会場には、じっくり見れば一日では終わらない多彩な展示が行われる。来場者それぞれに、何らかの形で役に立つ内容が必ずあるはずだ。

例えば、多くの製造業にとって喫急の課題が工場の生産ラインの省エネルギー化。トーホーエンジニアリングは乾燥炉、水切炉、焼き付け炉などに導入するタンジェンシャルシステムを紹介する。これは装置に均一な流れを可能とするタンジェンシャルファンを導入したもの。

風の流れが層流で風同士が重なり合わず、スムーズできれいに流れる。これによって省スペース、省エネルギーにも貢献できるという。

機械装置を動かすのに欠かせない油は、大量に使用するにはリサイクルを考えねばならない。喜楽鉱業は長年油のリサイクルに取り組んでおり、会場でも廃油リサイクルとゼロエミッションをフローで図説している。さらに廃油をLS（再生）重油として生まれ変わらせる工程や、油系の廃棄物の受け入れから焼却までサーマルリサイクルで一貫処理の工程なども紹介している。

廃棄物処理には分別して集め、さらに運ぶという作業が欠かせない。インターアクションはリサイクル資源の分別・収集・運搬向け容器リレーバッグのメーカー。今回は大阪市の「ベンチャー調達制度」認定を受けたフレコン専用台車「コロボックス」なども展示し、導入メリットなども紹介。



▲……今回の「びわ湖環境ビジネスメッセ」は15周年の記念開催（写真は10年の会場）

300の企業・団体、集結

出展数 過去最大規模に

シンポジウムも実施

25日

会場では展示以外にもセミナーなど興味深い催しも実施を予定する。長浜ドームのセミナー室それぞれを使って、同じ時刻に行われるセミナーも多いので注意が必要だ。主なものを挙げると、初日24日の10時半からは嘉田由紀子滋賀県知事と李仁善韓国慶尚北道副知事との対談。コーディネーターは久保英也滋賀大学リスク研究センター長。14時50分からは佐和隆光滋賀大学長の「日本の電力需給バランスと環境との融和」。

翌25日は10時半からカナダ・クリーン・テクノロジー動向セミナーや、中国市場開拓セミナーなどが開かれる。また、13時半からは「社会的責任（SR）・省エネルギー（EN）についての環境マネジメント」。京都大学大学院経済学研究科の諸富徹教授らの講演などが行われる。同じく13時半からは電気自動車活用セミナーが実施。

今回、長浜ロイヤルホテル（長浜市大島町）を会場に、15周年記念シンポジウムが行われるのも注目だ。25日14時からは同シンポジウムの基調講演として「エネルギー革命―エネルギーのスマートイノベーション」が行われるほか、「地球支援とバイオマスエネルギーの可能性」（13時半―）アグリビジネス・カフェinびわ湖環境ビジネスメッセなども開かれる。

このほか、特設ステージでは、会期中に随時出展者プレゼンテーションが実施される。持ち時間は各25分で、新製品や新事業、あるいは独自の取り組みなどを当事者から直接紹介される。これを聞けるのも、来場者ならではの特権といえる。

主催者メッセージ

□■□

「びわ湖環境ビジネスメッセ」は、環境と経済の両立を基本理念に、持続可能な経済社会の実現を目指し、経済団体、大学、地元自治体が連携して開催してまいりました。今年で15回目を迎えることができましたのも、これまで延べ3800者に達する出展者の皆さまと、約55万人に及ぶ来場者の皆さまにご支持いただけたからこそと、心から感謝申し上げます。

滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会名誉会長 滋賀県知事 嘉田 由紀子

再生エネ関連産業を振興

滋賀県では、琵琶湖の保全を中心に、環境問題に関して早くから先駆的な取り組みが進められてきました。

今日、東日本大震災や今夏の関西における深刻な電力需給問題などを背景に、地域分散型、地産地消型の新たなエネルギー社会への構造転換が求められる中、環境産業、とりわけエネルギー関連産業が集積している本県としましては、そのポテンシャルをいかし、地域で取り組み可能な再生可能エネルギーの導入促進や関連産業の振興を戦略的に推進していくこととしています。

このような中、過去最大の出展規模となる「びわ湖環境ビジネスメッセ2012」がこれまで以上の成果を得ることを心から期待しています。メッセ開催に向けてご尽力いただきました関係の皆さまに感謝申し上げますと共に、このメッセが環境産業における新規事業の創出やビジネスチャンスの拡大、さらなる技術革新の芽を生み出す、活気あふれる商談と交流の場になることを願っています。

□■□

今年15周年記念開催となる「びわ湖環境ビジネスメッセ」は、10月24日（水）から26日（金）までの3日間にわたり、県立長浜ドームで開催いたします。ご来場いただきます皆さまに厚くお礼申し上げます。

当メッセは、「環境と経済の両立」を基本理念とし、環境産業の育成振興を図ることを目的として1998年から毎年開催され、環境負荷を低減する製品・技術・サービスなどを対象とした商談・取引と情報発信・交流の場として定着してきました。

ビジネスのヒント獲得を

わが国の経済は、昨年の東日本大震災により大きなダメージを受けましたが、復興に向けた懸命の取り組みにより全体としては緩やかながら回復に向かっています。

しかしながら、円高やデフレの長期化、欧米の景気停滞と欧州の債務問題、さらに国内では深刻な電力不足など多くの不安材料を抱えています。

このような中で、環境やエネルギー関連の産業は、持続可能な経済社会の確立に向け、次代を担う成長産業として大きな期待が寄せられています。また、環境関連産業のすそ野は拡大しており、新規事業創出や技術の高度化・細分化により、大企業のみならず中小企業にとっても大きなビジネスチャンスがあります。こうした環境産業に取り組む企業からの意欲的な出展により、今年の出展者数は300者（企業・団体）、小間数では過去最高の510小間となりました。

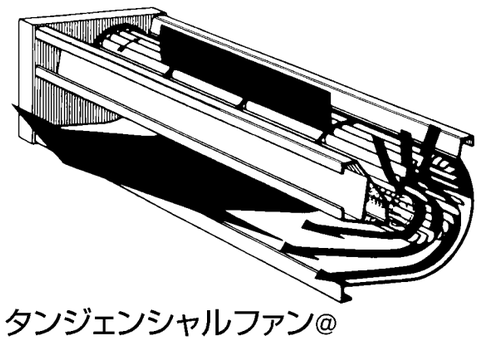
ご来場の皆さまには、出展企業・団体との取引や商談のみでなく、最新の環境情報や事業展開のヒントなどを得ていただき、当メッセから数多くのビジネスチャンスと実りある成果が生まれますことを切に期待しております。

滋賀環境ビジネスメッセ実行委員会 会長 坂口 康一

乾燥炉・水切炉・焼付炉・送風テスト・シュミレーター等でお困りの方はTOHOのシステムが解決します!!

※ホームページのアドレスが変わりました。 URL:http://www.tohoeng.net/

このファンが決めて



タンジェンシャルファン@

新製品が追加されました!!

■寸法・仕様
タンジェンシャルファン
○サイズ　90φ,150φ～1000φ
○長　さ　400㎜～4,500㎜
○温　度　−40℃～500℃,800℃

シンプル＆高機能な送風システム。

びわ湖環境ビジネスメッセ2012 | 小間番号 B-37

出展内容

『タンジェンシャルシステム』

タンジェンシャルシステムとは装置にタンジェンシャルファンを導入したものを言います。
従来型ファンは一般的に風の流れが乱流です。風同士がぶつかり合い、風圧も低下して性能が著しく悪化します。
それに比べ、タンジェンシャルファンは風の流れが層流です。風同士が重なり合わず、風の流れがスムーズで、尚且つ綺麗に流れていきます。
乱流と層流の相違が装置に導入される事によって、省スペース、省エネ化等に大きく貢献し、世界でも類を見ないものになることでしょう。

こんな方にぜひ見ていただきたい！

当社のタンジェンシャルは、主に加熱・冷却・乾燥・送風テスト・冷凍・集塵・換気に適しており、お客様のニーズにお応えします。
まずは当社のHPをご覧下さい。

〈営業品目〉
乾燥炉・水切炉・塗装プラント・食品産業・表面処理装置・省力化装置・タンジェンシャルファン・シミュレーター・クロスヒーター・エンセラヒーター etc. 設計・製作

TOHO トーホーエンジニアリング株式会社
本社 〒462-0844 名古屋市北区清水3-14-11 ☎〈052〉991-1040㈹ FAX〈052〉914-9822
研究開発センター 〒462-0835 名古屋市北区杉村1-16-20 ☎〈052〉915-1040 FAX〈052〉919-1212